

大栗川キャンドルリバー

主催 由栗(ゆっくり)交流会

2022年11月12日 (土)

報告

1万5千本のキャンドル点火

「大栗川キャンドルリバー」は多摩ニュータウン八王子東部地区(旧由木村)の中心を流れる大栗川を舞台とした地域の交流を図るイベントです。由木村が八王子市に合併して50年が経ち、それを記念して2015年に第1回目が開催されたのが始まりです。2022年はコロナ禍で3年ぶりに対面で、第7回目の開催をすることになりました。

11月12日土曜日12:00ボランティアの受付を開始し、多数の学生ボランティアを中心に続々と人々が集まりました。協力4大学は、工学院大学WA-K、PRO/中央大学ボランティアセンター/東京工科大学ボランティアコネクションと当日参加した本学ボランティアセンターです。事前に各大学学生ボランティアは企画・デザイン・紙コップへの色付けまでして、色付き紙コップを会場に持ち込みました。13:00以降、キャンドル配置のデザインを監督するリーダーの指揮のもとに、グループ単位で15,000個のキャンドル配置作業を開始しました。紙コップに砂を入れその上にカップ入りのロウソクを置きました。

16:00点灯式が開催されました。石森八王子市長の挨拶と共に、4大学ボランティアの代表が挨拶をしました。初回参加の本学は暖かく向かい入れられ、関谷君が、来年以降他大学と一緒に準備・企画段階から参加したい旨も宣言しました。報道陣・テレビカメラも見守る中、市長もロウソクで点灯を行いました。

開会式・点灯式の様子



挨拶する八王子市長(右)と関谷君(本学学生・左)



今回の活動場所

ロウソクがチャッカマンで火を付けましたが、なかなか一つの紙コップの中のロウソクに火を付けるのは難しく、且つ15,000個もあって多くのボランティアが苦勞していました。すべてのロウソクの点灯が終わり、日暮れの17時には、夕闇に浮かぶ色鮮やかなキャンドルリバーの流れが、大栗川と太田川の合流地点の大栗川公園と柚木緑道に浮か上がり、この世のものとは思えぬほど美しい感動で訪れた大勢の人々を魅了しました。とりわけ、極彩色に彩られたキャンドルリバーはそこにたたずむだけで幻想的な感動をもたらしました。そして、20時終了後、他大学と共に本学学生2名が後片付けにあたりました。

来年次回以降、本学学生も他大学と一緒に企画段階から参加できれば、他大学との連携でさらに素晴らしい感動を味わえる機会になることでしょう。

キャンドルリバーの様子

